

三年

## 木かげにごろり

### 第一次指導

(始まるまでに学習の準備を一人ずつ確認)

○ それでは、朝の挨拶をしたいと思います。皆さん、目を見せて下さい。(児童の目を見る。) 元気よく言います。おはようございます。

おはようございます。

○ 夏休みなのにこうして出て来てくれてありがとうございます。わたしは島根県という所から来ました。知っていますか。

(知っているとつぶやく子あり。)

○ 今日と明日と二日間、「木かげにごろり」と一緒に勉強するのを楽しみにして来ました。わたしも今ちょうど三年生の担任をしているので、みんなと同じくらいの人と勉強しています。二日間楽しく勉強しましょう。

### 一 よむ

○ 今日勉強する「木かげにごろり」を家で読んでみた人いますか。遠慮しなくていいですよ。

(二十人くらい挙手。)

○ はい下ろして下さい。嬉しいです。今日、読んで来なかった人も、今日しっかり読んで勉強しましょう。それでは、読

む番号をつけようと思いますので教科書をあけて下さい。

### 〈区画〉

1 四ページ4行目 山をこえ

○ 七ページ7行目 ある夏のことです

2 九ページ5行目 しかたなく

3 十ページ1行目 また

4 十一ページ1行目 秋風が

○ 十二ページ1行目 そのうち、

○ 十三ページ1行目 地主様

5 十四ページ1行目 もう、こうなつては

○ 十五ページ3行目 親せきの人たちは

○ 全部で九人の人を読んでもらおうと思いますが、わからなかったところのある人、いませんか？大丈夫ですか。(不安そうな児童を確認する。)

○ それでは、鉛筆はノートの今日勉強するところにはさんでおいて下さい。(全員そろうのを確認)

○ 後ろの人から順に読んでもらおうと思います。

(一人ずつ、順を確認する。)

○ 今日は体育館なので教室とは違います。大きな声でゆっくり、はっきり読んで下さい。飛行機の音に負けないくらい元気な声で読んで下さい。聞いている人も本を立てて、そう、腰ぼねがピンと伸びると、木かげにごろりというお話がどんなお話なのかよくわかると思います。読む人は立って読んで下さい。次の人は前の人が終わるようになったら静かに立って下さい。お願いします。

## 二とく

○ ゆっくり読んで下さいと言ったら、ゆっくり読んでくれたのでお話がわかったと思います。

(板書 木かげにござり)

○ このお話、どこのお話？日本のお話？

世界のお話。

○ 日本のお話ではないんです。どこのお話か知っていますか。

中国の話です。

○ 中国ではないけれど、日本の隣に朝鮮半島というのがあって、その国のお話です。その国に民話といって、人から人にどんどん伝わっていったお話です。

○ 木かげ、皆さん知っていますか。絵を書くので見ていて下さい。

(板書 木の略図を書く。



○ 木に見えますか。(子どもたちうなずく。) ありがとう。木のどこにできるんでしょうか。

木の下。

○ 木の下にできる。

(板書 木の下にかげを書く。



○ 木の下にできる。どんな時に入る？木かげに入ったことあるという人？

○ どんな時に入るの。

暑い時。

○ 木かげに入るとどうなりますか。

涼しい。

○ 涼しいね。残念ながら、今日は暑くないので木かげはできない。

○ ページの絵を見て下さい。木かげにいるのは誰？

地主です。

○ 木かげで何をしてるの。

ねっころがっている。

○ ねっころがっている。何か見えているでしょう。

百姓たちがしつかり働くように見張っている。

○ お百姓さんたちがしつかり働いているのを、寝っころがって見てるでしょう。さあ、百姓たちは仲良く、ここで一生懸命お仕事をしています。この百姓たち、困ったことがあるんです。何に困った？

お米や麦等をどっさり横取りすることです。

○ 横取りすること。まだあるでしょ、困ってること。

よくばり。

○ そう。欲張りなこと。もう一つある。

ただでは木かげに寝っころがってはいけない。

○ 寝っころがってお百姓さんたちをずっと見張っていたでしょう。この金持ちの地主さんが持っている物で、百姓たちが欲しがった物は何？

木の木かげ。

○ そう。木かげが欲しかった。一生懸命働いた物を全部売ってしまつて、木かげを買った。それほど木かげが欲しかった。

○ 木かげはいつも同じ形ですか。

ちがう。

○ 変わっていったので、十ページの絵、どこまでのびた？  
中庭。

○ 中庭までのびた。三人の人がごろんと寝っころがってるでしょう。十三ページ、どこまでのびた。

板の間。

○ 板の間に三人がごろんと横になっているね。こっちの広い方はどこだろうか。こっちの方。

中庭。

○ 中庭です。見て下さい。たくさんの人たちが、ごろごろごろごろがっています。わかりますね。初め、この木かげ、誰のもの。

地主。

○ 地主のものでした。終わりは。

お百姓さん。

○ お百姓さん。最初は地主さんのものが、最後はお百姓さんのものになった話です。

○ 地主さんは取り返そうとしませんでしたね。地主さんとお百姓さんのやりとりのとりももおもしろい話です。

〈手引き〉

○ それではみなさんに、お仕事をしてもらいます。ノートを開いて下さい。一番から五番までのところで、かげがのびたところを探してノートに書いてもらおうと思います。

### 三 よむ かく

○ ノートの一番上に数字で1・2・3・4・5と書いて下さい。マスの中にしつかり大きく書いて下さい。

（一線を引き、五つに区分し、1から5までうつ。）

○ 一番、一緒にやってみましょう。木かげはどこにありますか。

家の前。

○ そう。家の前の広場にあります。

（板書 広場。）

○ 二番は、木かげはどこにありますか。  
門の前です。

○ 門の前。

（板書 門の前。）

○ じゃあ、3番・4番・5番は、どこまでのびたか、自分で探して短いことばで書いて下さい。どうぞ。

（子どもたちが書く間、机間指導をしてノートを確認する。この間、五分。）

（机間指導後、3・4・5の部分を板書。）

○ まだの人も手を置いて下さい。みんな一生懸命探してくれただけ、先生も探してみました。先生のと一緒にでなくてもかまいません。鉛筆をノートにはさんでノートをとじたら、本の上に置いてサツと片付けて下さい。

○ みんなのノートはマスが小さいのに、一生懸命書いてくれましたね。

### 五 よむ

○ それでは黒板で勉強するので黒板を見て下さい。この棒の先を見て目で読んで下さい。読む時の姿勢と同じ（姿勢が良くなる。）素晴らしい。（指黙読一回。）

○ 大きな声でお願いします。木かげにごろり、はい。（声が小さいので）遠慮しなくていいよ。木かげにごろり、はい。（少し大きくなる。指音読一回。）

## 六 とく

○ さあ、木はどこに立っていましたか。

家の前。

○ あの中で（板書を指して）いうとどこですか。

広場。

○ 一番短い木かげはどこ。

広場。

（板書 広場に傍点。）

○ 一番長いのは、

ごちそう。

（板書 ごちそうに傍丸。）

○ 百姓たちがいっぱいいました。ここにも百姓たちの入った木かげがあります。一人入った木かげはどこ。

門の前。

（板書 門の前の下に一人。）

○ ちょっとふえて三人入ったのは。

中庭。

（板書 中庭の下に三人。）

○ だんだん増えていきました。

（板書 広場からごちそうまでそれぞれ傍線）

○ 百姓が入った木かげは何番から。

二番

（板書 2から5を括弧でくくり、この上に百。）

○ 一番は誰の木かげ。

地主です。

（板書 1を括弧でくくり、1の上に地。）

○ 百姓の入った木かげで地主さん一番あわてたのはどこ？

板の間。

○ （4を丸で囲み）板の間に入った時、地主さんあわてました。明日は板の間を勉強しようと思います。

○ 百姓の人たち、こうなることがわかっていたのだろうか。

わかっていたと思う人？

（挙手なし。）

○ わかっていなかったと思う人。

（全員挙手。）

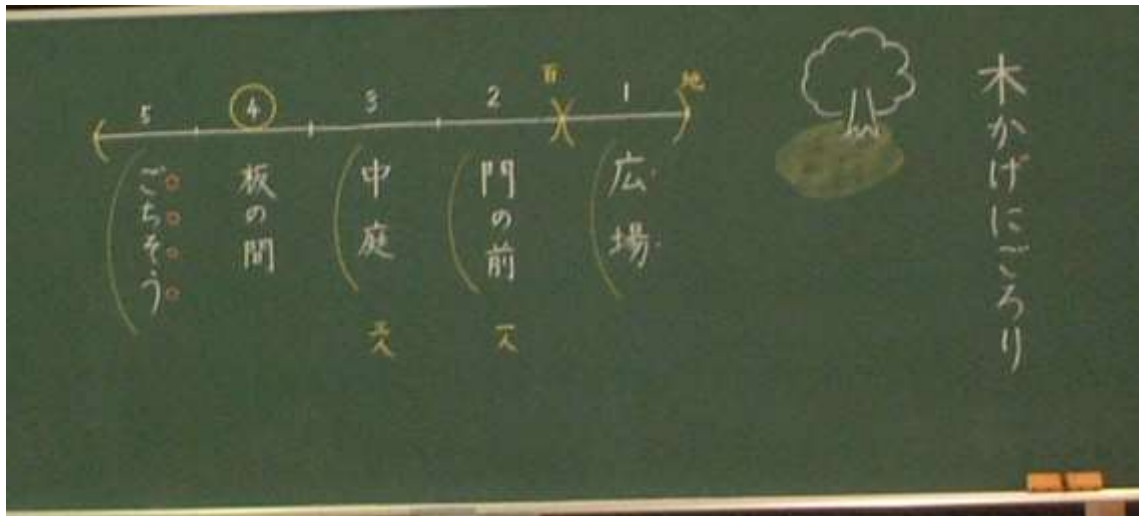
○ そのことを考えながら、家で読んでみて下さい。

## 七 よむ

○ 最後に、皆さんのいい声を聴かせて下さい。

（五 よむの時より良い声でそろっている。）

○ とても楽しいお話なので今日帰って又、読んでみて下さい。気をつけて帰って下さいね。さようなら。



## 第二次指導

(始まる前に。)

○ 暑くなっただけど、木かげを見つけて来た人？

(五・六人挙手。)

○ あいさつをしましょう。元気よくお願いします。おはようございます。

おはようございます。(元気よく。)

## 一 よむ

○ 今日も楽しく一時間勉強したいと思います。昨日、お家で帰ってから読んでみた人いますか？

(十三人挙手。)

○ 読んでできてくれてありがとう。手のあげ方も上手だね。気持ちがいいです。今日も、みなさんのいい声が聞けそうです。今日も大きな声でゆっくり読んで下さい。(順番の確認。)昨日も言ったように、次の人が終わりそうになったら立って読んで下さい。

○ 聞く人も昨日とても上手だったので、今日もがんばって聞いて下さい。(聞く準備を確認して読ませる。)

(九人順に音読。)

○ 昨日の人たちも上手でしたが、今日の人たちもゆっくりはつきり読んでくれて、とてもわかりやすかったです。

## 二 とく

○ じゃあ、きのうのことを思い出してもらいます。お話に出

て来た人は誰と誰。

地主です。

○ もう一人。

お百姓。

(板書 地主―)

(板書 百姓―)

○ 地主がお百姓さんに貸していたものがあります。

土地。

(板書 土地 地から百へ矢印。その上に書く。)

○ 地主さんから借りていた土地。毎日夏の暑い時にこの土地で何をしていましたか。

働いていた。

○ 働いていました。働いて、お百姓さんたちが地主にあげていたものは何ですか。

お米や麦

(板書 米・麦 百から地に矢印。その上に書く。)

○ 自分たちで一生懸命働いて

お米や麦を地主さんにあげていました。だけど、地主さんはそれだけじゃなくて、もっともつと横取りしようと思っていました。お米や麦をたくさん取っているのに、まだお百姓さんから横取りしようとしたものがありました。

(考えている。)

○ なんだろう。それをくれたら暑い夏が楽です。

木かげです。

○ 地主さん、木かげを取り上げましたか。

(考えている。)

○ 木かげは地主のものになりましたか。なったと思う人。

(挙手なし。)

○ ならなかったと思う人。

(全員挙手。)

(板書 → 麦  
米 ← 木  
木 かげ)

○ 横取りするどころか百姓に売ってしまいました。その木かげを。ここにある(板書をさして)木かげは地主の家の前にしかないですか。木かげ一つしかない？ いろんな所にあるでしょ。

○ でもね、地主さんの家の前の木かげ、百姓にあげたら、地主さん困ったよ。

地主が言った時は自分の家の前だったけど、お百姓さ

んがどんどんふえた。

○ かげが大きくなったでしょう。そして、お百姓さんがごろつとねっころがってしまった。そして、かげがのびていつて、ねっころがるだけじゃなくて、

木かげがごちそうの上まで来たから、ご先祖様にあげるごちそうまで食べた。

○ ごちそうまでお百姓さん食べてしまったでしょう。文句を言いましたか。言わなかったね。どんどんどんかかげが大きくなつてのびていったけど、黙って約束を守ったでしょう。(手引き)

○ 木かげがのびて、地主さん驚いたところがある。今日はそこを書いて勉強しようと思います。地主さんが大変驚いたところ、板の間のところを開けて下さい。

○ 十三ページ。4番の丸の二つ目ね、この十三ページを今からノートに書いてもらおうと思います。ノートに書く時に、「」がありますから、「」の書き方に気をつけてノートに書いて下さい。書くところわかりましたか。

(返事。)

### 三 よむ かく

○ ノートのマスにしっかり、こい字で書いて下さい。

(教科書の置き方を指示。書くところを一人ずつ確認して板書に入る。)

(約十分で板書を終わり、机間指導。)

○ 途中ですが、置いて下さい。(書いている子、五人位あり。)  
きのうよりたくさん書いてもらいました。濃い字で書いて下さいとお願いしましたが、濃い字で書いてあるので見やすかったです。二学期もこの調子で。それでは、ノートに鉛筆をはさんで本を重ねて、机の中にしまってください。

### 五 よむ

○ まず、目で読んでもらいます。この先を見てお願いします。  
ここは点がないけど、とまって下さい。

(視黙読一回。)

○ じゃあ、飛行機の音に負けなくらい大きな声で読んで下さい。地主様、はい、

(声が少しそろわないので、百姓のせりふを一回読み直して最後まで読む。)

### 六 とく

○ わからない意味の言葉がありますか。

(挙手なし。)

○ しっかりってどういう意味。(しっかりに傍点をうちながら)  
きちんと。

○ はつきり、きちんとということですね。

○ どこまで(傍点を打ちながら)とあるけど、今、どこ。

中庭まで

○ 中庭と思ったのね。ここは

(板書 板一)

○ もう一つ、あわてて。(傍点を打ちながら)

いそいで(多数挙手。)

○ いそいで、びっくりして。

○ このお話、二つに分けます。

(板書 二つに区分してそれぞれに弧線。)

○ こっちのお話は誰と誰のこと。

地主と百姓たち。

○ こっちの話なんのこと。

木かげのこと。

○ 「」があるんだけど、こっちの「」は誰の言ったこと。

百姓。

（板書 「」の上に百）

○ こつちは  
地主。

（板書 「」の上に地）

○ こつちを先に見て下さい。

○ 百姓はいつも地主に言われてばかりでしょう。ここ、百姓が地主にしてほしかったこと何でしょう。いつもいつもお願いしていたことでしょう。

木かげがどこまでのびているかしっかり見て下され。

（三人挙手。）

○ （板書 見を○で囲み）自信を持って言ってるんです。

しっかり。

○ （波線を引き）しっかり見て下され。

○ 地主さん 予想外だったなってわかることは？

何（板書 なにに波線）

○ みんなも言いませんか。ちよつと、あれつていう時。

○ こつちでお百姓が喜んだことは何ですか。

木かげがのびた

（のびてに傍線）

（)

○ きつとこんな顔になったかな。

○ こつちで地主さんが困ったこと。

木かげがのびたこと。

（のびてにさらに傍線）

（)

○ こつちの地主のことに百姓のことが書いてあるんだけど、地主のことはどこまで。

あわてて地主がふり返る

○ ここまでが地主のしたことで、この後が百姓のしたこと。

○ さあ、こつちでもお百姓さんが喜んだことがある。何でしょう。

ねっころがつて

○ ねっころがつて。

（ねっころがつてに傍線）

○ 地主が困ったことは。

ねっころがつて。

（ねっころがつてに、さらに傍線）

○ 地主が困ったのもねっころがつたこと。一人や二人じゃなかったでしょう。中庭いっぱいにごろごろごろごろがつていたんだねえ。

さて、木かげつて何があるとできる。

木

○ 木。木がないと木かげができません。その上に太陽がくると、太陽が木にあたつて木かげができるでしょう。

と、太陽が木にあたつて木かげができるでしょう。

○ ごろりところがつたのは、一日のうちのいつ。

夕方

○ そう。いつも夕方にくろがつた。お百姓さんたちはいつも外で仕事をしています。ということは、いろんな物を作る時に太陽がないとできないでしょ。作物がとれません。



太陽のおかげでかげができて、かげのおかげで百姓が喜んだ。  
お百姓さんたちのいろんな智恵が書いてあった。

## 七 よむ

○ 最後に読んで終わります。かげが大きくなったように、みんなも大きな声で読みましょう。

指音読一回。(地主様を短く読み直して最後まで。)

○ 二日間とても楽しかったです。夏休み、まだ長いので、  
も外国の話があると思います。読んでみて下さい。  
最後にあいさつをします。さようなら。  
さようなら。

